「今日は多読をしますか？」－多読支援初心者としての実践と気づき－

“Are we going to do Tadoku today?”
- The First Attempt of In-class Extensive Reading and Outcomes -

NPO 多言語多読を通して、多読の活動が日本語教育界に広がり始めてから 20 年以上が経つ。多読とは、４つのルールに基づき（やさしい本から読み、辞書を引かず、わからないところは飛ばし、進まなくなったら他の本を読む）、学習者が自分の好きな本を楽しみながらたくさん読むことである（高橋他 2022）。また、支援者（教師）が教えるのではなく、学習者が主体となって、言語能力を向上させるだけではなく、文化や歴史なども自然と学ぶことのできる活動である。現在までに、授業内外を問わず、様々な形を通して学習者に、この多読の機会が提供されてきた（松田 2018、纐纈 2019、中 2020）。その中でも、髙橋・クック（2022）が提唱する授業開始の５～１０分程度で行う「ちょこっと多読」は、普段多読の時間をあまり確保できない授業環境においても、非常に取り入れやすい形態であり、特に多読支援初心者には最初の一歩として比較的導入しやすい活動であると思われる。そこで、2022 年秋学期から 2023 年春学期にかけて、大学の日本語初中級レベルの通常授業内において、ちょこっと多読を実践した。

本発表では、学習者としても支援者としても多読初心者である教師がどのように多読を取り入れ、また、どんな問題に遭遇し、それをどのように改善したかなどについて、報告する。さらに、学習者からのフィードバックを基に、１学期目と２学期目で変更した点や、学習者との何気ない会話から気が付いた多読の効果なども考察し、今後の発展についても述べようと思う。